

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)  
**A**: 十分達成できている  
**B**: おおむね達成できている  
**C**: やや不十分である  
**D**: 不十分である

学校名	唐津市立佐志小学校
1 前年度 評価結果の概要	○校内研究にしっかりと取り組み、全職員で授業スタイルの共有と授業力向上に努めた。実践を深め、学力の個人差に対応していくことが課題である。 ○地域の人材を活用し、地域から学ぶ活動をカリキュラムに位置づけた。地域から学び考えたことの発信ができるカリキュラムの改善をすることが課題である。 ○学校教育活動全体の中に人権教育を位置づけ、心の教育を推進できている。「人にやさしい言葉づかい」を意識させ、自尊感情の醸成をはかる取組の工夫が必要である。
2 学校教育目標	持続可能な社会の創り手となるたくましい児童の育成 ～めざす子どもの姿～ 「気づき、考え、実行する」子ども
3 本年度の重点目標	○9年間を見通した、小中連携の授業スタイルの確立と共有。共通した取組を考え、学力向上を図る。 ○学校教育全体において人権教育を推進し、合い言葉「人にやさしい言葉づかい」を意識させ、自尊感情を高める。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		学校関係者評価		主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上 (知)	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上	・導入での学習意欲向上。展開での話し合い活動の持ち方やワークシートなどの工夫。終末による、ふりかえりの時間の確保。	A	・学力向上アクションプランの2学期の自己評価において、単元全体の見直しを持たせるとワークシートの工夫、PWへの手立への評価が高くなった。	A	・12月の県学力調査の結果をもとに、教科毎に成果課題を分析を行った。根拠をもとにして書く、理由付けをしなが書く活動を次年度は重点を置いて取り組むことを共通理解。	A	・児童の実態を捉えて、必要な力をつけたり、研究授業を重ねたりして、全職員で一つになって進めてもらっていることはすばらしい。	☆学力向上 コーディネーター 増本
	○朝の特設タイムの設定 (スキルタイム、朝の読書) ○さし人学習の充実 (ひとみタイムの設定)	○期末テストの漢字・計算テストにおいて、60%以上の点数を目標とする。 ○話し合い活動のアンケートにおいて、話し合い活動が有効であると感じる児童70%以上	・朝の特設タイムや授業をはじめによる漢字・計算を計画的に実施し、実行。 ・授業の中で、目的や意図に応じて、話し合うべき必然性を設ける。	A	・11月下旬に期末の漢字・計算テストを実施し、漢字の平均が8.6、7 計算の平均が8.5、4であった。 ・11月に実施したアンケートでは、84%の児童が授業で考えを発表したり、友達の見解を聞いたりしている。89%の教職員が伝え合う活動を入れた授業づくりに取り組んでいると回答。校内研究への取り組みで成果が見られる。	A	・2月下旬に期末漢字・計算テストを実施。漢字の平均が8.7、8、計算の平均が8.4、8であった。前期との比較では、漢字が+1.1ポイント、計算は難度が少し上がり-0.6ポイントであった。宿題をきちんと出しているかという項目に対して90%の児童がきちんと出していると回答した。取り組みの成果はあがっていると思うが、次年度は基礎基本の力をつけるために、課題提出の意欲を向上させたい。	A	・朝の時間を有効に活用されている。短時間の集中力を家庭学習でも活かしていくように保護者としても声かけをしたい。	☆研究主任 鈴里 ☆まなび部
●心の教育 (徳)	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○縦割り活動後の振り返りで、活動に対して肯定的な回答をした児童が80%以上。	・縦割り活動を年10回以上実施し、その都度振り返りを行う。	A	・11/18のしろうおタイムで「楽しかった」と81%の児童が、10/16のたてわり掃除で「協力してきた」と94%の児童が回答した。 ・2学期までに縦割り活動を10回行った。3学期に5回行う予定である。 ・活動後には、縦割り掲示板で他学年の交流ができた。	A	・感染症拡大の為、縦割り活動は、3学期は実施できなかったが、最終アンケートで92%の児童が協力してきたと回答。 ・6年生を送る会、各学級、学年ごとにお世話になった6年生への感謝の気持ちをビデオメッセージにして伝える形で異学年交流ができた。	A	・感染症拡大の中、できる限りの活動していることが伝わってくる。子どもクラブの活動や地域行事も限られた一年だったので、学校における異学年交流は子どもの育ちを助けるよい取り組みだと感じている。	☆人権・同和教育担当 江川・山本 ☆特別活動 前川 ☆特活担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「学校に行くことが楽しい」と回答する児童が80%以上。 ○「児童が楽しく学校に通えるような指導・支援をしている」と回答する職員が95%以上。	・月1回の「心のアンケート」を実施し児童の実態を把握する。 ・「生徒指導・教育相談協議会」を月1回実施し、情報共有と組織的対応を図る。 ・事業発生時には「いじめ防止対策委員会」を開き、組織的に早急に対応する。	A	・「学校に行くことが楽しい」と87%の児童が、「児童が楽しく通える指導・支援をしている」と66%の職員が回答した。 ・「心のアンケート」を実施し、必要に応じて相談を行った。また、ケース会議を実施し、早急に対応をはかっている。 ・生徒指導、教育相談の協議会を毎月1回開催し、全職員で指導の反省や情報の共有を行い、指導、支援の方針を共通理解した。	A	・「学校に行くことが楽しい」と回答した児童は、年度末アンケートでは91%であり、中間評価よりやや向上している。 ・「心のアンケート」や「法によるいじめアンケート」を実施し、その都度、担任や級友で聞き取りをし、早期解決に努めた。件数も多いので、情報共有、経過観察は日常的に必要であり、次年度もチームで指導にあたる。	A	・「心のアンケート」をこまめにとり、いじめ等に対して、全職員で共通理解をして早期対応をしてもらっていることが有難い。 ・90%以上の子どもと保護者が、学校が楽しいと回答しているところにも先生方の努力を感じている。	☆生徒指導担当 田川 ☆教育相談 山本 ☆各担任 ☆生活の担当
●健康・体づくり (体)	●「運動習慣の改善や定着化」	○児童が主体的に運動に取り組むことができる環境づくりに努め、授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童80%以上を目指す。	・体育委員会を中心として「スポーツチャレンジ」への参加を全校に呼びかけ推進する。 ・なわとびタイムやマラソントイムを実施し、記録カードの配布や、意欲向上につながる掲示、放送でのよびかけなどを行う。	B	・「外で遊んでいる」と児童の82%が回答しているが、保護者の「外で体を動かし、よく運動している」という項目では、72%であった。このことから、家庭ではあまり運動や外遊びをしていないのではいかと推測される。なわとび等の記録カードを家庭でも活用することで運動する機会を増やしていきたい。 ・虫歯予防指導をしたり、受診勧告を教回したことで受診率68%と目標を上回ることができた。今後も個別指導することで受診率を上げたい。	B	・業間には、縄跳びタイムやマラソントイムを設け、運動の奨励をした。その為、外遊びをしていると回答した児童は、92%になり、前回より向上している。 ・1日3回の歯磨きをしていると回答した児童は、94%。虫歯予防の為、3年生を対象にしたブラッシング指導も行った。受診率は70%であり、保護者への啓発が継続して必要。 ・全国学校給食週間時には、給食委員会で1週間食に関する放送を入れたり、全校で川柳や給食センターの方への手紙を書いたり食の大切さを学んだ。量を調整したり完食する児童も増え、残量も減った。	B	・マラソントイムのカードを配布され、全校的な取り組みとしているところが、子ども達の意欲につながっている。 ・歯磨きは食生活の習慣は、家庭教育で身につけることが大切であると感じる。学校だけでなく、家庭のほうでもがんばってきたい。	☆保体部 山下 ☆保体部
	●「望ましい生活習慣の形成」	○12月の時点で、虫歯の処置完了児童の割合を60%以上にする。 ○好き嫌いをしないことと食事のマナーを柱に食育の充実を図る。	・「ほけんだより」や掲示物等で、虫歯さや虫歯治療に対する、児童や保護者の意識を高める。 ・個別に受診勧告をし、虫歯予防や虫歯治療へとつなげる。 ・「食に関する指導の年間計画」に基づき、各学年に応じた指導を確実に実践する。	B	・1学期は、各学級の残菜が多かったが、量を調整したり、放送で呼びかけたりすることで全体的には残菜量が減った。 ・会議データは可能な限りデータ化し、授業で使用するワークシート類は、共有フォルダーに入れ、改善しながら活用。職員会議は、予定時間内に確実に終わるように議題の提案の仕方工夫、精選がされている。 ・週1回の定時退勤を実行できている職員は50%程度。学校行事の精選を意識し、定時退勤ができる環境作りが管理職に今後必要。	B	・各部会、各担当での打合せを確実にやっているため、提案や実践がスムーズにできている。 ・教務主任をはじめとするミドルリーダーが主軸となり、カリキュラムマネジメント研修を行い、行事の見直しを図り、次年度へつなぐ教育計画作成ができた。	A	・先生方の業務は、とても煩雑で大変だと思う。子ども達のために多くの準備をされ、授業にも臨んでおられるのがよく分かる。有難い反面、プライベートな時間も大事にしたい。	校長 教頭
●業務改善・ 教職員の働き方 改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 【月45時間】	・定時退勤日の設定(金曜日) ・会議の提案等は、PDFデータにて、パソコンを活用。 ・ワークシート類は、共有フォルダーに入れ、自由に活用しながら改善。	B		B		A		
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育 の推進	○(学校独自重点取組・任意) 教員の専門性と意識の向上	○(学校独自重点取組・任意) 特別支援に関する意識が向上した教員80%	・校内教育支援委員会を年に6回以上開催し、情報の共有を図る。 ・個に応じた支援方法を研修し、特別支援に対する見識を深める。 ・年度当初に個別の支援計画や指導計画を活用して共通理解を図り、個に応じた対応を行う。	B	・市の支援委員会前や必要に応じて、校内支援委員会を2学期までに8回実施し、情報の共有を図った。3学期も支援について、開催を予定している。・研修会などに参加し、必要に応じて有効な手立てなどを知らせた。 ・年度当初に支援が必要な児童の前年度の支援の方法を知らせ、個別の支援計画・指導計画を作成したり有効な手立てについて話し合ったりした。	A	・職員間で連携を密にし、情報共有をしながら、支援の必要な児童の手立てを考え実践してきた。 ・年度当初に作成した個別の支援計画や指導計画をもとに、今年度児童にどのような伸びがあったか、次年度への引き継ぎ事項を全職員で確認している。	A	・支援の必要な子ども達に適切な指導をしていただいていることを、日常的に感じている。	☆特支 コーディネーター 岩本 ☆特支担当 峰

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・朝の特設タイムや課題の出し方を工夫し、土台となる基礎の力をつけさせる。漢字・計算のテストにおいて平均85%達成をめざす。 ・人権教育を推進し、「人にやさしい言葉づかい」が85%以上を達成する児童」と「学校が楽しいと回答する児童」が85%以上をめぐす。 ・カリキュラムマネジメント、業務の効率化を進め、職員の時間外勤務時間を短縮するよう努める。週末の定時退勤の徹底を図る。
--------------------	--